

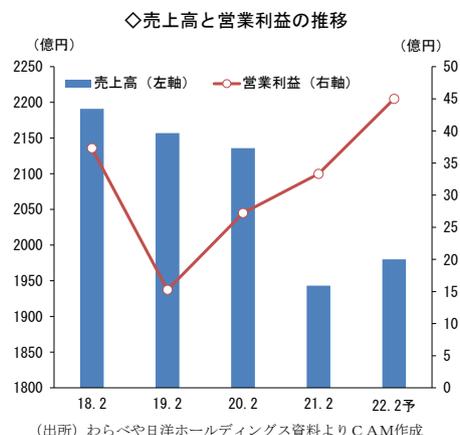
企業ニュース わらべや日洋ホールディングス

(東証1部: 2918) <https://www.warabeya.co.jp/ja/index.html>/作成者: 高見澤晶子

セブン-イレブン向けに米飯などを納入

コンビニ向けにおにぎりや弁当などを販売。主要取引先はセブン&アイ (3382) 傘下のセブン-イレブン・ジャパンで、販売額は連結売上高の約8割を占める (21. 2期実績)。21. 2期はコロナ禍で取引先の売上高が低迷、主力商品のおにぎりを中心に販売数量が減少し減収となった。一方営業利益は、生産拠点の再編や商品規格の見直しなどが寄与し2桁増益となった。利益確保に向けた取り組みは今後も継続する方針で、さらなる収益性の改善が期待できよう。

中期戦略として海外事業の拡大を目指す。米国では既にハワイ州、テキサス州で事業を展開。2021年7月には東海岸エリアへの進出と工場の新設を発表、米国セブン-イレブンの取引拡大を図る。



生産性向上に取り組み、営業利益は大幅増益

22. 2期・第1四半期 (3-5月) の連結業績は、売上高が471億円、前年同期比2%増、営業利益が14億円、同6. 3倍。コロナ禍による外出自粛の影響が続いたが、前年同期からは一部持ち直し、増収を確保した。粗利益率は同2. 5ポイント改善。売上回復に加え、商品規格の見直しや前年同期に棚卸資産評価損を計上したことからの反動増などが寄与した。

22. 2期の通期会社計画は、売上高が1, 980億円、前期比2%増、営業利益が45億円、同35%増。コロナ禍の影響縮小で売上高は回復に向かうとみられるが、足元は感染者数が急増しており回復ペースにはやや不透明感が残る。また、6月1日に人材派遣関連事業から撤退したことも影響し1桁増収にとどまる見通し。利益面では、生産拠点の再構築や商品規格・原価管理の見直しに継続的に取り組む方針であり、2桁営業増益を目指す。国内では鮮度をより長く保つチルドカップスープや容器が自立するスタンドパウチ商品など、顧客需要を捉えた商品を拡充する。また、成長カテゴリーのチルド米飯やデザートは生産体制を強化する。

[株価動向・投資判断]

生産性改善の効果が顕著に出ておりポジティブな印象。海外事業の中長期的な収益貢献にも期待したい。

<2918 わらべ日洋 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20. 2	213, 581 (▲ 1)	2, 721 (78)	2, 773 (57)	1, 010 (66)	57. 6	40. 00
21. 2	194, 309 (▲ 9)	3, 332 (22)	3, 710 (34)	682 (▲ 32)	39. 0	40. 00
22. 2 予	198, 000 (2)	4, 500 (35)	4, 900 (32)	2, 800 (310)	160. 4	40. 00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2021/7/30)	2, 324 円
年初来高値 (高値日)	2, 483 円 (21/7/13)
同 安値 (安値日)	1, 411 円 (21/1/4)
予想 P E R (22. 2 予)	14. 5 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	2, 561. 2 円
P B R	0. 91 倍
予想配当利回り	1. 72 %
(1株当たり配当金年40. 00円)	
R O E (21. 2)	1. 5 %
発行済み株式数	1, 763 万株